

「生死の問題」

久しぶりに遊びに来たS君(21歳)と、これからのことを話しているうちに老後の話にまでなって、「年を取って、何にも出来なくなって、ただ生きているだけの日々なんて嫌だ、耐えられないよ。」と、S君は本当に嫌そうに顔をしかめた。私は「人が生きるってもっと深いことで、動けなくなっても、何も分からなくなっても、大切な意味があると思うよ」と言いながら、こんな通り一遍の言葉がS君の心に響かないことは分かっていた。そして、それはS君の若さ、人生経験の足りなさだと思っていた。

だがとんでもない、私だって思っている。「ただ生きているだけの日々なんて嫌だ」と。神様を信じたのも、ただ生きているだけの日々に耐えられなくなったからだった。S君と違うのは、私にとって「ただ生きているだけの日々」というのは、寝たきりになることでも、一人ぼっちになることでもない。今日を生きる力がなくなり、喜びも愛も希望もなく、惰性で生きるしかない日々のこと。

いつ頃からか、きらきらと本当に生きているのは子供だけで、大人はみんな惰性で生きているように見えた。若いころ、重度の知的障害児施設に遊びに行き、帰りの汽車の中、目の前の不機嫌そうな大人たちの顔が異常に見え、あのプリンを食べさせてあげた子供たちこそ正しい人間の顔だと思った。ともかく、その人が「ただ生きているだけ」かどうかは、外から見ても分からないし、自分は「ただ生きているだけ」であっても、他の人に生きる意味を与えている場合もあるだろうし、生きるということは限りなく深いことで、それを知るためにこそ、人は今日を生きられているのかもしれない。

それはさておき、聖書を読むようになって、今日生きる力は、今日神さまが与えてくださると分かって、イエスキリスト♪あなたの生きる限り、力を与えると、約束して下さる優しいお方です♪リビングプレイズ 33 と、日々実感できるようになって、私にとってこれ

ほどの喜びはない。いくら体が健康で、家族がいて暮らしに不自由しなくても、朝毎に
♪今日も励もう主に守られ♪(新聖歌 257)と力が湧いてこなければ、S 君でないけれど
「そんな日々耐えられないよ」と思ってしまう。

それは、神さまを知らなかった日々と、神さまと共に生きる日々とのコントラストによっ
て、あまりにも明白なのだが、これがイエスさまの約束してくださった「永遠の命」なのだ
と胸が熱くなる。

今から 30 年も前の事だが、今は亡き山田なみ子さんから「未発表講演記録 生死の
問題 矢内原忠雄」という冊子をいただいた。なみ子さん自身が講演のテープ起こしを
し、作成されたもので「これは、私にとって大切な大切なものなの。大切にね」と言
って手渡されたのに、大切にしすぎてあまり開くこともなく、そのままになっていた。とこ
ろが、「今日を生きる力、溢れてくる喜び、愛、希望、それが永遠の命だ」と今、胸がい
っぱいになって、冊子と共にいただいたなみ子さんの言葉をありありと思い出した。

「キリストを信じるすべての人に約束されているのは、永遠の命なの。その他のことはね、
ある人には家庭の幸福が、ある人には体の健康が、ある人には良き仕事を与えられ、
それらを与えられない人もあって、与えられても取り上げられることもある。それらは人
さまごまで、神さまの恵みの現われ方、くださり方が違うだけなの。でも、でもね、ただ
一つ確かなことは、信じる者には永遠の命が与えられるってこと！ 矢内原先生が、姫
路の講演でそう言われて、苦しんでいた私はそれを信じたの。」

なみ子さんの言葉に励まされて、「生死の問題」を改めて読んで、やっぱりそうだと
思う。永遠の命とは、今日を生きる力であり、信じる者に、日毎に与えられる生命なの
だ。

「生死の問題」からの抜粋

「生きるはキリストである」(ピリピ 1:21)ということの内容は何だろう。第一に考えられることは、生きる力はキリストである。こう思うこともできる。自分の中において、生きているのはキリストが生きているのだと。自分の肉体の生命とか心の生命とか、そういうものは実に弱いもので、もろいものであって、肉体の生命はすぐに疲れてしまう。あるいは病気になる。あるいは死に至るのであるが、そういうものは本当の生命と名付けることはできない。心はどうかというと、心もはなはだ頼りないもので、ある時には非常に心が高まって愉快で、すがすがしく希望に満ちるが、次の瞬間にはグッタリなって元気がなくなってしまう。それからさらに、その自分達の体と心のコンビといえますか、組み合わせで起こってくるいろいろな自分達の生活を考えてみても、多少良いこともするように思うこともあるけれども、またそれと全然反対に自分の心が汚くて、感覚的欲望に捕らわれたり、自分は醜いものだということを自覚する。自分というものの持っているものは生命にふさわしくない。

キリストを信ずることによって与えられた生命、キリストを信ずる生命というものは変わらない。感情の浮き沈みとか、体の疲労困ぱいとかにかかわらず、キリストの生命は絶えず新鮮に供給される。泉の湧くのを見ていると、下からこんこんと湧き溢れてきます。泉の表面に木の葉が散り、この浮かんだ枯れ葉やゴミ屑などどうなるかといえますと、これはやがて風に吹かれたり、水に流されて行きますが、底から湧き出る泉とは、自分の中からではなく、注ぎ出されるというか、湧き溢れるのでありますから、自分が苦労して努力して取り出すものではなくて、神様から与えられるものですから、これは尽きることがない。結局その生命の泉が自分を生かしているのであります。(抜粋終わり)

渴いている人はだれでも、わたしのところに来て飲みなさい。わたしを信じる者は、聖書に書いてあるとおり、その人の内から生きた水が川となって流れ出るようになる。

ヨハネ 7:37-38

この生きた水を飲んで、日々刷新されよう。それでも古い自分が現れてきたら、「わたしのもとに来なさい」と言われる、イエスさまの御声を聞こう。

「わたしは柔和で謙遜なものだから、わたしの轡を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。」マタイ 11:29

イエスさまは、柔和と謙遜の道をどこまでも、どこまでも、十字架の死に至るまで歩まれた。この道を行かせてください。